



池尾和人 教授

専門：金融論・日本経済論

(インタビュアー：布川、松島)

『金融論・日本経済論』

Q. 池尾先生の専門とされている研究内容はなんですか？

私の専門は元々金融論です。金融論といっても幅広いですが、私の専門はその中でも金融制度をミクロ経済学の視点から分析するということです。端的に言えば、応用ミクロ経済学としての金融論ということになります。経済分析の対象としての制度がどういった意味、役割を持っているかを明らかにすることが主軸になります。

最初の方に研究していたテーマは、アメリカと比較して特殊だと言われていた日本の金融制度がそれはそれで経済合理的なものであることを明らかにする、というものでした。始めはミクロ経済学的に金融制度を中心に研究していましたが、最近長いこと研究を続けているということもあって、マクロ経済学的視点からの金融危機や金融政策の考察も取り上げるようになりました。ですから、「今の専門は金融論・日本経済論です」と聞かれたら答えることにしていますねー応（笑）

『自由と自己責任』

Q. 池尾先生の教育理念を教えてください

私が基本的に普段相手にしているのは大学生なわけで、それもゼミとなれば20歳超えた3年生4年生の専門課程を学ぶ学生であるわけです。勉強っていうのは親のためにやるのでもないし、教師のためにやるものでもない。それくらいの年齢であれば勉強は自分のためにやるものだって事は分かっているべきものだと思います（笑）。もちろん大学生の段階では人生経験が少ないとい

うこともあるので、私も含めてそうなのですが、日本の大学卒業者は学生のうちにもっと勉強しておけば良かったと必ず後悔します。ですから一応アドバイスはします、勉強した方がいいよとかね。でも、20歳を超えた人間に勉強しなさいとか強制するのは、やはり違うと思っています。勉強ってというのは繰り返しになりますが、自分のためであって他人のためにするものではないので、言ってしまうと、私には学生が勉強しないことで不利益になるようなことはないわけで、ゆくゆく困るのは本人自身であるということですよ。

ただ、こういった話をする時に、「勉強」という言葉を私が使う意味と、受け止められる意味とはニュアンスが違う場合があるみたいです。私の言う勉強というのは、広い意味で自分を高めるような努力を勉強と言っているのですが、受験勉強のような狭い意味での勉強と捉えられることもあるようですね。私は前者のような広い意味での自分を高めるような勉強に資するような教育サービスは提供しますが、それを活かすかどうかは本人次第です（笑）。

『原点は助手時代』

Q. 池尾先生の学生時代のお話を聞かせてください

40年も前の話ですからね（笑）。学部時代は金融系のゼミに所属していましたが、今から考えるとそんなに大層なことを勉強していたわけではなかったですね。マクロ経済学に近い勉強をしていました。大学院時代もその延長で理論を勉強していました。ですが、岡山大学に最初に就職して助手（いまでいう助教）をやっていた時代にちょうど応用経済学の研究が大きく進展する時期であったこともあり、現実には応用的な経済学を研究するようになったことが今の専門を研究するきっかけにはなりましたね。学業以外の面はトップシークレットなので、話せません（笑）。

『学習への意欲と資質』

Q. 池尾ゼミを志望する2年生に求めるものは何ですか？

そうですね。先ほど述べた教育理念のような勉強に対する自覚があることは必要ですね。自分を高めるような広い意味での勉強が必要だと認識している人が理想ですね。やはりそういった自覚がない人は遠慮したいですね（笑）。もちろん最初から自覚が深い必要はないです。若いうちは偶然やちょっとした経験の中でそういった自覚が深まることもありますからね。最低限の自覚は持って

いて欲しいということです。

……。ただですね、こういうことを言っているのか分からないですけど、やっぱり資質というのはあると思っています。みなさん慶應義塾にいるわけですので、それなりの資質の高さを持っていると思いますが、その中でも頭の回転がいい人と悪い人はやはりいます。ですからやはり優秀な人の方が手間がかからなくていいというのが本音ですね（笑）。

私はエラーには2つあるという話を必ずすることにしていて、統計学で最初に勉強するかと思いますが、エラーには第1種のエラーと第2種のエラーがあります。第1種のエラーとは「正しいものを間違っている」としてしまうことで、第2種のエラーというのは「間違っているものを正しい」としてしまうエラーのことです。

ゼミ選考のケースで言えば、「合格にすべき人を不合格」にしてしまったり、「不合格にすべき人を合格」にしてしまったりこともあるわけです。ですから、ゼミ生に対しては、みなさんが卒業する時に「今年度は第2種のエラーがなかったね」と言えるように頑張ってもらいたい、と最初に宣言することになっています（笑）

言い換えると、本当は合格すべきなのに不合格になってしまうようなこともあるわけです。ゼミ選考というのはそんなに多くの時間を割くことはできないわけですから、もちろん選考はしっかりとやりますが、高い信頼を選考結果に置いていることはないです。ですからゼミ選考に合格したからといって得意になってもいいけませんし、逆にたまたま不合格になったとしても卑下する必要はないということです。

『変化に対する高い感度を持って!』

☆最後に2年生へのメッセージをお願いします☆

「世の中は変わって来ている」ということに高い感度を持って欲しいと思います。日本の大学生、特に文科系の大学生というのは勉強をしないと言われていて、これは今に始まったことではなく昔からずっとそうなのです。私自身も学部時代はそんなに勉強していなかったですからね（笑）。ですけど、そういった勉強をしないことが許容されていた時代から許容されない時代に世の中が変わってきていて、例えば先輩が勉強しなくてもやって行けているから自分もしなくていいという考え方は、世の中に対する認識が甘いということです。

端的に述べれば、情報技術の発展によって、それまで人間がやっていたような事務職など文科系大学生が就いていた仕事がコンピュータに置き換わって来ているわけです。人間に残されている仕事というのが二極分解して来ていて、非常に単純な仕事か、高度な判断力が求められるような仕事の2つに分かれてきています。全く大学で勉強しなくてもそこそこの仕事をしながら経験を積んで技能を高めて行く、そういった以前のようなキャリアパスはどんどん乏しくなって来ています。古き良き時代は勉強しなくても立派に社会人になれましたが、そういった時代ではもうありませんから、2年生のみなさんには世の中の変化に敏感になって自分がその変化に対応するにはどうすればいいのか、なにをしなくてはいけないのかを深く考えて欲しいなと思います。